

(様式3)

農業研究成果情報 No.874(令和元年(2019年)5月)分類コード 02-07 熊本県農林水産部

いぐさポット苗株分け時の新芽等への損傷は苗の生育にほとんど影響を及ぼさない

いぐさの夏親苗用に使用するポット一次苗では、株分け時の新芽等への損傷により、その後の生育に、一部抑制傾向がみられるが、影響は生じない。本田移植用に使用するポット二次苗では、株分け時の損傷は、その後の生育への影響はみられない。

農業研究センターアグリシステム総合研究所いぐさ研究室(担当者:西田 伸介)

研究のねらい

ポット式いぐさ移植機では、ポット苗を育苗するために、親苗からの株分け・挿し苗作業が必須となっており、株分け時に新芽等を傷めないよう慎重に行う作業が、育苗作業の効率化を図るうえで課題となっている。

そこで、ポット苗の株分けの際に想定される損傷の影響を検証し、株分け作業の簡便化の一助とする。

(参考)ポット育苗の作業体系列

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作業内容	冬親苗移植	→	ポット苗株分	→	夏親苗移植	→	ポット苗株分	→	本田移植			
苗	冬親苗(畑or水田)		ポット一次苗		夏親苗(畑or水田)		ポット二次苗		本田			

研究の成果

1. いぐさポット一次苗では、「涼風」の先端除去処理において、水田苗、畑苗由来区ともに茎長が短くなるが、移植時に茎長を20cm以下に切断するため影響はなく、他の品種では各損傷処理による有意な差はみられない(図1、図3)。
2. ポット一次苗では、「ひのみどり」の新芽損傷処理において、畑苗で茎数が1本程度、少なくなるが、他の品種では各損傷処理による有意な差はなく、茎数への影響はみられない(図2、図4)。
3. ポット二次苗では、生育(茎長・茎数)に対し、各品種とも各損傷処理での有意差や欠株発生も認められず、生育への影響はみられない。(図5、図6)。

普及上の留意点

1. ポット苗の処理方法は、1標準(新芽+親茎2~3本株分け)、2新芽損傷(新芽1本+親茎2~3本に調整したいぐさの新芽を欠損)、3先端除去(新芽1本+親茎2~3本に調整後、先端の新芽付近を地下茎毎切断)とした(写真1を参照)。
2. ポット苗の育苗期間は、ポット一次苗が平成30年5月7日~6月18日、ポット二次苗が平成30年10月3日~12月3日。
3. ポット苗の水管理等の栽培管理は、現地での慣行に準じて行う。



写真1. 苗の人為的な損傷の状況

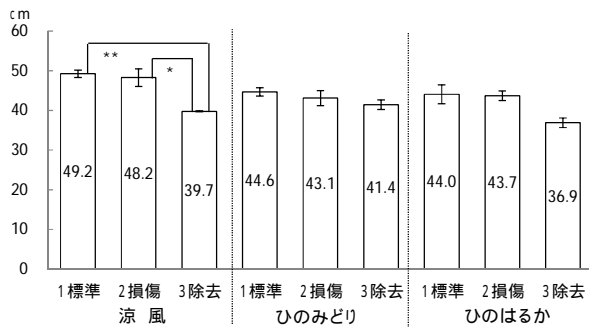


図1. 各損傷によるポット一次苗の茎長比較(水田苗)

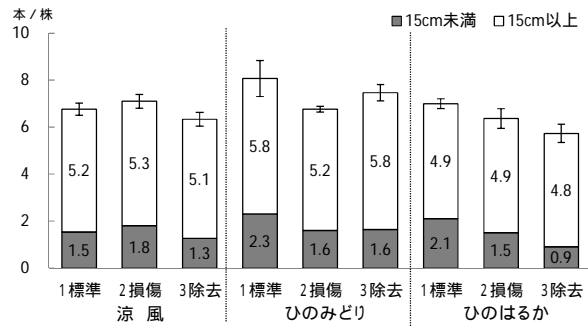


図2. 各損傷によるポット一次苗の茎数比較(水田苗)

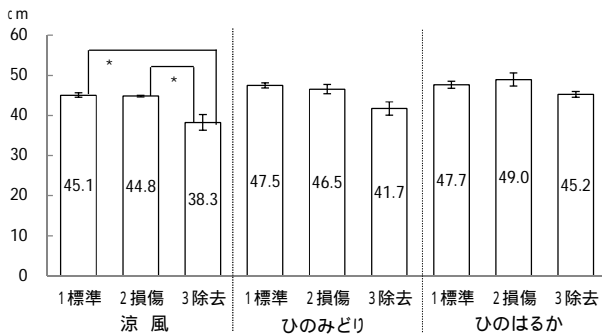


図3. 各損傷によるポット一次苗の茎長比較(畑苗)

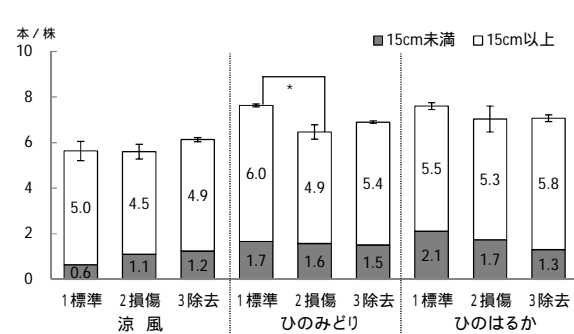


図4. 各損傷によるポット一次苗の茎数比較(畑苗)

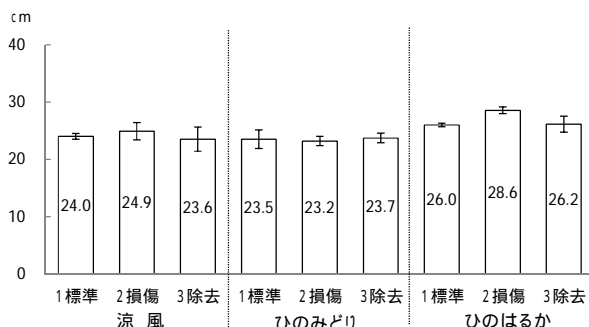


図5. 各損傷によるポット二次苗の茎長比較(畑苗→水田苗)

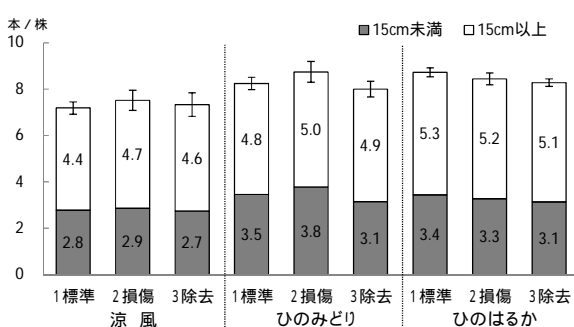


図6. 各損傷によるポット二次苗の茎数比較(畑苗→水田苗)

注1) ポット一次苗(図1~図4)の調査日は、平成30年6月18日(N=10、3反復)
 ポット二次苗(図5~図6)の調査日は、平成30年12月3日(N=18、3反復)
 注2) 各品種ごとに茎長及び全茎数について、Tukey多重比較検定を実施(*:5%有意、**:1%有意)
 注3) 図中のエラーバーは標準誤差を示す